

大久保中学校いじめ防止基本方針

【 基本姿勢 】

いじめは、させない！

許さない！

隠さない！

一人ではなくチームで対応

基本理念

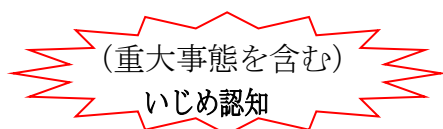
「いじめ」を「当該児童生徒が、一定の人的関係にある他の児童生徒等から、心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）を受けたことにより、心身の苦痛を感じているもの」と定義し、これの予防、防止、早期発見早期解決に努める。

また、いじめか否かの判断を事の大小とするのではなく、いかなる内容であっても、いじめられた側の心情に寄り添い、全力でその解決にあたるものとする。

いじめの基本認識

- ① いじめは、どの生徒にも、どの学校にも起こり得るものである。
- ② いじめは、人権侵害であり、人として決して許されない行為である。
- ③ いじめは、大人には気づきにくいところで行われることが多く、発見しにくい。
- ④ いじめは、「いじめられる側にも問題がある」という見方は間違っている。
- ⑤ いじめは、その行為の態様により暴行、恐喝、強要等の刑罰法規に抵触する。
- ⑥ いじめは、教職員の児童生徒観や指導の在り方が問われる問題である。
- ⑦ いじめは、家庭教育の在り方に大きな関わりを持っている。
- ⑧ いじめは学校、家庭、地域社会など、すべての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって取り組むべき問題である。

組織



校長・教頭
生徒指導主事・学年主任

生徒指導部員会（いじめ防止対策委員会）

開催日： 毎週開催
構成： 校長・教頭・生徒指導主事・学年生徒指導担当
保健主事・特別支援学級担当・教育相談員

内容

- ① 未然防止、早期発見の取組
- ② アンケートの実施と結果報告
- ③ 各クラスの状況報告

いじめ認知

いじめ問題対策会議

○開催日： いじめを認知した時点で、速やかに開催する。そして、事態収束まで開催する。

○構成： 校長 教頭 生徒指導主事 学年主任 学級担任 その他

○内容

- ① 事実関係の正確な調査・把握と教育委員会への報告
- ② 被害者、加害者または全体に対して、具体的な指導方針を検討
- ③ 保護者と連携を取りながら、いじめの解決指導
- ④ 関係機関（教育委員会、警察、児童相談所等）と連携を取りながらいじめの解決指導

いじめの未然防止に向けた施策

1 生徒指導の三つの機能を生かした教育活動

(自己存在感, 共感的人間関係, 自己決定の場の設定)

- ① 「わかる授業づくり」を進め, すべての生徒が参加・活躍できる授業の工夫
- ② 生徒指導の観点による授業の相互参観の実施

2 道徳教育・人権教育の充実(「ネットいじめ」対策を含む)

- ① 人権意識の高揚, 自己有用感を高める道徳授業の実践
- ② 「心のノート」の活用
- ③ 携帯電話, インターネット等の情報モラルの指導と保護者との連携
(家庭でのルール作りの推進)

3 心の居場所となる学級づくり

- ① 学級全員の思いや願いが込められた「学級目標」の設定
- ② グループワークトレーニング・構成的グループエンカウンターを活用した人間関係づくり
- ③ QUアンケートの活用

4 生徒会活動の充実

- ① 生徒の創意工夫を生かした体育祭, 文化祭等の開催
- ② 生徒会主体とした「いじめ撲滅運動」の実施

5 教職員の意識高揚といじめ防止研修会の実施

- ① 校内生徒指導だより「チーム大久保」や職員会議での通知, 問題の提起
- ② 市及び県主催研修会の伝達研修
- ③ スクールカウンセラーを講師とした事例研修会の実施

いじめの早期発見に向けた施策

1 相談体制の充実 ～ 気軽に相談できる雰囲気づくり ～

- ① 生徒指導部と教育相談部による合同部員会の開催(週1回)
- ② スクールカウンセラー, 教室相談員との情報交換
- ③ 教育相談月間及び必要に応じて個人面談を実施

2 小さなサインを見逃さない ～ 生徒がいるところには, 先生がいる ～

- ・ 個人ノート, 生活ノート等を活用した学級担任との絆づくり

3 アンケート調査による実態の把握

- ・ アンケート調査を月1回実施

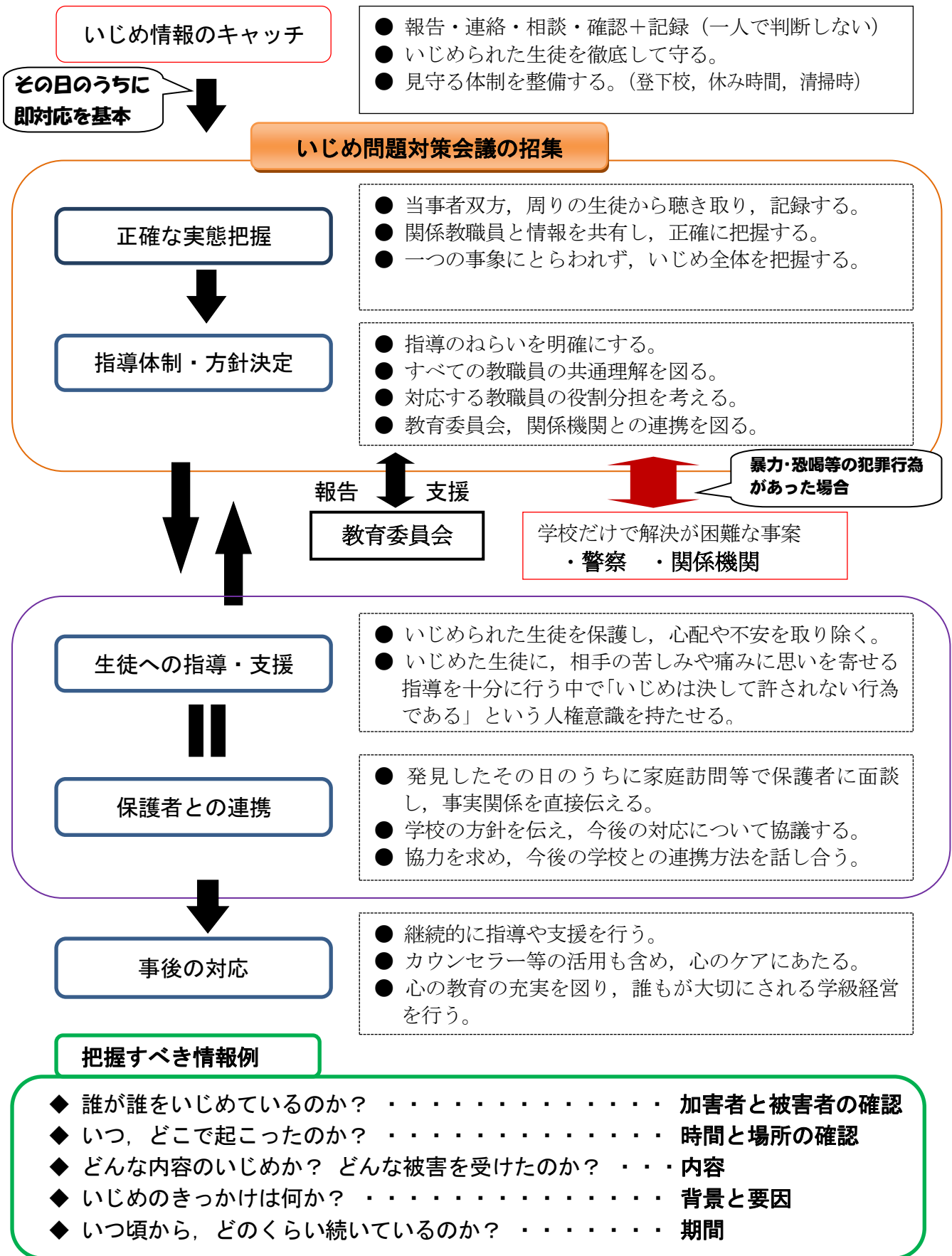
4 保護者との連携

- ① 各種通信(学校, 学年, 学級), HPを通して, 保護者の学級への関心を高める。
- ② 定期開催のPTA役員会・運営委員会, 学級懇談会等で情報提供する。
- ③ 生徒のパソコンや携帯電話, スマートフォン等を第一義的に管理する保護者との連携した生徒の見守り

5 警察等, 関係機関との連携

- ① 地域コミュニティとの定期的な情報交換を行う。
- ② いじめの内容に応じて警察と連携し早期解決を図る。

いじめが起こった場合の学校全体の取り組み



要注意 : 生徒の個人情報，その取扱いに十分注意すること

重大事態への対応

【 学校 】

重大事態の発生

- 「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い」(生徒が自殺を企図した場合等)
- 「相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑い」
(年間 30 日を目安。一定期間連続して欠席しているような場合)
※生徒や保護者からいじめられて重大事態に至ったと申し出があったとき

